

第76回日本書芸院（役員展）に出展して

29期 竹本治男（大鶴）

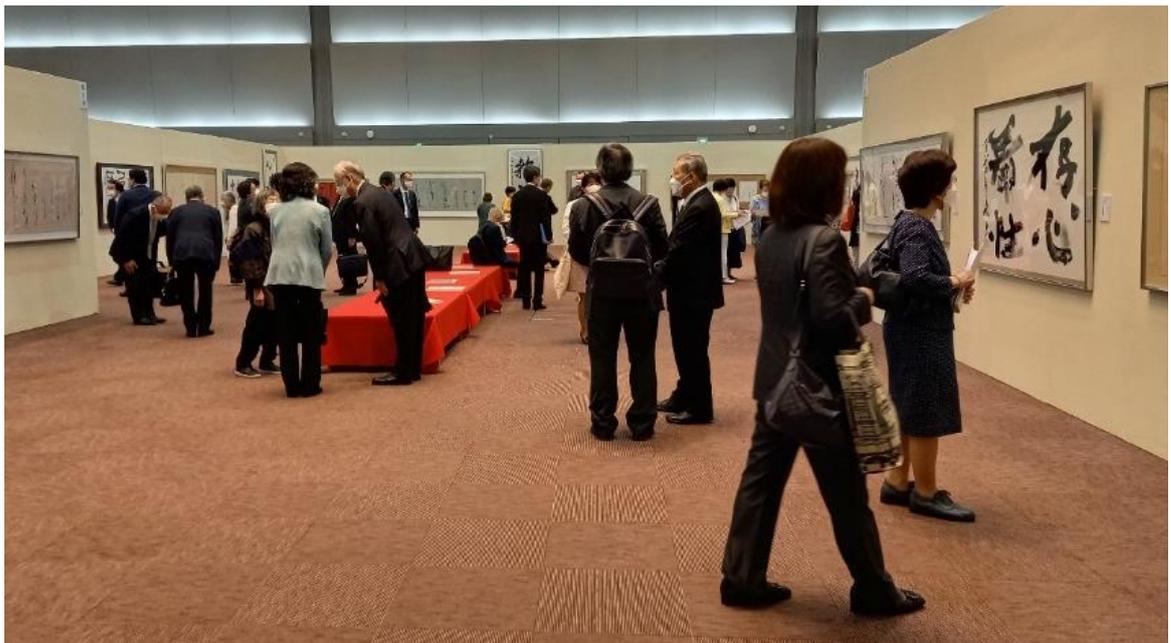
4月27日（水）～5月1日（日）大阪国際会議場3階特別会場にて、日本書芸院（役員展）が開催されました。去年・1昨年と2年連続最高賞の「史邑賞」をいただき、今回「参与」として出展させていただきました。

日本を代表される書家の先生方の作品の片隅に私の作品を展示していただきうれしい反面、大変恐縮しました。

私の作品は宋の時代の書家「米ふつ」の書風を基調に余白美をモットーに28cm×53cmの画仙紙に50字の漢詩を横型式に展開しました。

余白美や強靱な線質の足りなさを反省しながら原点に返り「積み重ね！ 積み重ねても、また積み重ね！」のごとくコツコツ努力しながら精進したいと思っています。

2022（令和4年）5月1日 記



（会場風景）



(作品の前でパチリ)

(作品の釈文)

宿洗公房曉起偶成
高明

曉雨池上來 微風動寒綠 幽人睡初起 開窗見脩竹
西山帶層雲 隱隱出林木 境寂塵自空 慮澹趣常足
獨坐無與言 流泉下深谷

洗公房に宿して曉起す 偶成
曉雨池上来り 微風寒緑を動かす 幽人睡り初めて起き 窓を開いて脩竹を見る
西山層雲を帯び 隱隱として林木を出ず 境寂にして塵自ずから空しく 慮澹くして
趣常に足りる 独り坐して与に言無し 流泉深谷に下る

高明